

SAMPLE

特集レポート No. 043

SI業界の抱える構造的な課題

Strictly Confidential

 Info Mart Corporation

2017年 6月28日

はじめに

- システムインテグレーション(SI)業界は企業における情報化が進むにつれて拡大し、ピラミッド構造をとるIT業界の頂点として成長をつづけている
- しかしながら、業界は長年、プロジェクトの失敗、納期の遅延、見積金額と最終コストとの大幅な乖離など、本質的な課題をきちんと解決できずにいるのが実態である
- 本レポートでは、SI業界の抱える構造的な課題に注目し、その実態とそれを踏まえた情報システム開発の成功パターンについて考察・整理を進めることにする

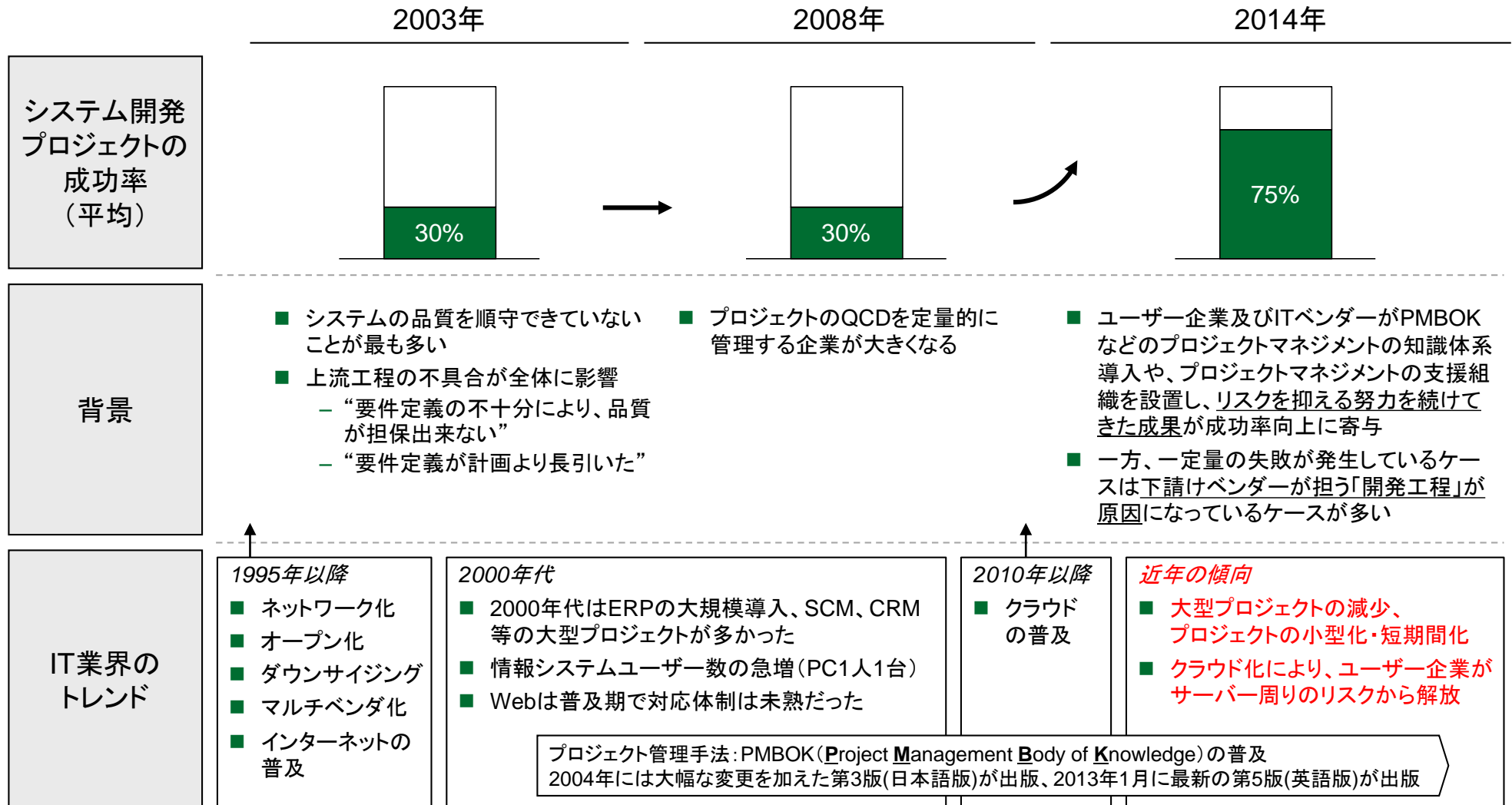
本資料の流れ



- I. 情報システムの構築の難しさ
- II. 情報システム構築の成功事例

情報システム構築プロジェクトの成功率は近年向上している

- 日経コンピュータ誌の調査によると、“品質(Q)”、“コスト(C)”、“納期(D)”の3点全てにおいて、当初の計画通り順守出来たプロジェクト(=成功プロジェクト)は直近では75%程度。それ以前は30%程度だった



出所: 日経コンピュータ誌のアンケート結果を参考に作成

情報システムの構築が難しい理由

- 情報システムは複雑で、融通が利かないと同時に、その姿が可視化されていないため、「モノづくり」でありながらプロジェクトの難易度が非常に高い

情報システム開発において直面する現実

“システムは目に見えない”

- 開発メンバー間でも、できあがりの全体像は共有できていない
- 操作してみないと、きちんと完成しているかどうか分からない

“想定以上に複雑”

- ある程度、業務に柔軟性・幅を持たせようとする、半端ではない場合分けのパターン数に至り、それらが相互に影響しあう
- 結果として、末端の微細な変更があらゆる部分に影響する
 - 下手に小手先の修正を繰り返すと、できていると思っていた部分が徐々に壊れてくる

“想定以上に柔軟性がない”

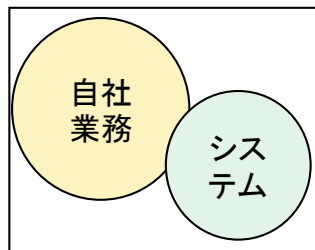
- システム設計は、ほとんど曖昧さを許容しない

事例① 自社業務に合わないパッケージ導入を進め断念した通信会社A

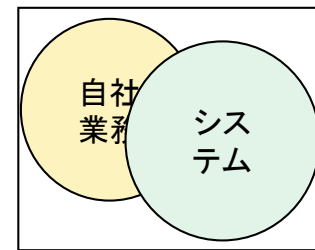
- 自社業務にそぐわないパッケージを採用してしまった結果、プロジェクトを打ち切り、自社でのシステム開発に切り替え

数百億円を投じたシステムを捨てた

- 1980年代にある通信会社AがB社の電話業務パッケージソフトの導入に着手
- 通信会社Aはシステムと自社業務の互換性を正確に検証しないまま開発に着手。膨大な修正作業が発生し、最終的なシステムのクオリティも満足いくものではなかった
- 数百億円を投じたものの、プロジェクトを打ち切り、自社でのシステム開発に切り替えた



- 自社の業務のカバー範囲の狭いERPパッケージを選定
- 大量の修正・カスタマイズが必要になる



- 資金と時間を投じてシステムの業務範囲を広げる
- 依然としてカバーできない範囲が残り、業務の進め方の変更やシステムの総入れ替えが必要になる

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

